富士フイルムホールディングス株式会社
2024 年 3 月期 第１四半期決算説明会
主な質疑応答

Q：第１四半期実績について、社内計画に対する営業利益の遂行状況を教えてほしい。

A：全社ではほぼ計画通りの遂行。ヘルスケアは、30~40 億円の未達。コロナ禍で需給逼迫に対応して厚めに確保した部材・消耗品の有効期限が切迫したことにより、バイオ CDMO・ライフサイエンスで棚卸資産評価減を 50 億円計上したことが主要因。マテリアルズは、半導体市場の市況軟化や、コンシューマーデバイスの需要停滞の影響により、40~50 億円の未達。ビジネスイノベーション、イメージングは、販売好調に加え、コスト削減や値上げ効果等が寄与し、それぞれ約 30 億円、約 50 億円の過達となった。

Q：バイオ CDMO について、第 1 四半期の実績、および今後の収益性の見通しを教えてほしい。

A：第１四半期の売上高は対前年で増収。モダリティ別では、売上高実績の約 7 割を占める抗体医薬品の製造受託が非常に好調。前年度と製造キャパシティは変わらないものの、製造バッチ切替の際に必要となる品質保証（QA）、品質管理（QC）のバリデーションにかかる時間を最短化することで生産性を向上させ、為替影響等を除いても 2 割強の伸びを達成した。一方で、約 15%を占める遺伝子治療・細胞治療薬の製造受託は、バイオベンチャーの資金調達難の影響を受け、低調となった。厳しい市況は当面続くとみているが、中長期的な成長が期待できる分野であり、引き続き注力していく。

営業利益は対前年で減益となるも、部材・消耗品の評価減計上を除くオペレーションベースではこれまで通りの収益性を確保している。今後は、現在設備投資を進めている大型培養タンクを確実に立ちあげ、収益をさらに拡大していく。2025 年稼働予定のノースカロライナ拠点の大型タンク、および 2026 年度稼働予定のデンマーク拠点の大型タンクについても、今年度後半の契約締結に向けて、確度の高い商談が進んでいる。

Q：メディカルシステムについて、中期的な成長計画を教えてほしい。

A：メディカルシステムの 2023 年度の売上高予想は 6,500 億円。今後、年率 6~ 7 %で成長させ、2030 年度に売上高 1 兆円、営業利益率は 10 %台後半を目指している。中間目標である 2026 年度 7,000 億円の達成確度は高い。

国内グループ会社の再編を通してサービス人員あたりのカバレッジが高まることによる生産性向上や、AI チャットボットの活用等によるスピーディーかつ効率的なメンテナンス実施により、利益率を上げていく。

加えて、今後の成長を牽引するのは、医療 IT と内視鏡。医療 IT については、国内でトップシェアを占める PACS に AI を搭載し、当社のもつ幅広い画像診断機器と組み合わせ展開していく。内視鏡についても、非常に好調であり、第 1 四半期は対前年で+30%弱、特に中国では+50%弱と大きく伸長した。